

中国語教育学会会報

第31号(通巻56号)2011年1月31日発行

〒441-8522

愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学
荒川清秀研究室内

中国語教育学会

HP <http://www.jacle.org/>

Email ch_teaching@yahoo.co.jp

郵便振替口座 00110-1-191152

=====

目次

- (1) 2010年度第2回理事会報告
- (2) 2010年度 新規会員(2010年6月4日より11月30日現在まで)
- (3) 今後の研究会開催のお知らせ
- (4) 2011年度第9回全国大会のお知らせと研究発表応募要領
- (5) 事務局からのお知らせ

=====

- (1) 2010年度第2回理事会報告

会場：愛知大学東京事務所(霞が関3-2-1) 日時：12月18日(土)1:00~4:00

理事会出席者：会長：荒川清秀 / 代表理事：郭春貴、佐藤富士雄、平井和之、藤井達也、山崎直樹、山田眞一 / 理事：岩本真理、遠藤雅裕、大川完三郎、加藤晴子、清原文代、日下恒夫、胡士雲、鈴木慶夏、陳淑梅、西香織、丸尾誠、村上公一、守屋宏則 / 齋藤貴志(次年度大会開催校代表：麗澤大学)

書記：植村麻紀子(幹事不在のため)

欠席者：三宅登之、古川裕、楊光俊、依藤醇 幹事：塩山正純、中西千香

【報告事項】

1. 会員動向について

会長より、2010年6月4日より11月30日現在まで、新入会員が10名あったとの報告があった。4ページの(2)に氏名をあげた。

2. 研究会報告

地区研究会担当者から1月開催の研究会について報告があった。今後の研究会は、4ページ(3)に。

九州地区1月研究会

日時：2011年1月8日(土)13:00~17:00

場所：西南学院大学1号館305教室(地下鉄西新駅下車徒歩5分)

会長記念講演 荒川清秀(愛知大学)中国語を歩く 中国の街を歩きながら日中の漢字の違いを考える

秋山淳(西南学院大学)概念構造と結果補語

浅野雅樹(下関市立大学)文法面における類義語弁別法について 類義語辞典の記載を中心に

藤小春(広島大学・非)如何教日本学生“要”之考察

関東地区 1 月研究会

日時：2011 年 1 月 29 日(土)14:00～

場所：目白大学 10 号館 3 階 10302 教室

(西武新宿線または都営大江戸線中井駅下車徒歩 8 分)

竹中佐英子(目白大学)中国語の学習成果を左右する要素の分析

小園瑞恵(東京外国語大学・非)汉语簡体字教学的尝试—在理解日本常用汉字的基础上学好简体字—

今井俊彦(立教大学・非)現代中国語の二重目的語構文とヴォイス構文の類似性

3. 2011 年度全国大会(麗澤大学)の進捗状況報告

齋藤貴志会員と平井和之会員より報告があった。研究発表募集要項については 5 ページに

4. 『中国語教育』第 9 号 投稿状況

会長より、今年は 23 本の投稿があり、これから査読に入るとの報告があった。

5. 「日本における中国語教育の現状に関する調査について」

会長が代表者になり、科研・基盤研究 C に 500 万円の予算で応募し、通らなかった場合、愛知大学の科学研究費に応募し、予算がついた段階で理事、会員に協力を求める予定であるとの報告があった。

6. 東洋学・アジア研究連絡協議会への参加

上記の会は「日本において、東洋(アジア)の古代から現代に至る諸文化を各種各様のディシプリンで研究する東洋学・アジア研究に係る諸学協会が、将来における斯学の一層の振興を図り、そのために相互の学术交流と連絡協議を行い、また学術行政に対して制度的な対策を図り積極的な提言を行い、さらに国際的な東洋学・アジア研究の動きにも対応する機関」として設立されたもので、この会に参加することについては、すでにメーリングリストで理事会の承認を得ているが、これを再度確認した。なお、この会には中国語学会も入っている。参加費は 2000 円、会計年度が 1 月からなので、2011 年になってから入会する予定である。

【審議事項】

1. 2010 年度会計中間報告ならびに会費督促について

会長より、これまでの予算執行状況が報告され、さらに会費納入率が低いが、これをどうするかについて審議したいという提案があった。これに対し、他の学会のように、会費を払っていない人にはニューズレター等送らないというやり方はどうか、しかし、そうすると事務局が大変ではないか、督促を送ることと会誌をとめるのとどちらが大変か等々意見が出たが、結論としては、前会長の時にもこの話題が出て、督促したらそれなりに効果があったので、まずは督促してはどうかということに落ち着いた。なお、会費納入状況についての詳しい資料は、6 ページを参照願いたい。

2. 編集委員会の創設について

春の理事会において、会長より編集委員会立ち上げを提案し、6 月の大会時、会員総会で承認を得た。今回は会長が編集委員長を務め、以下 7 名の方に委員をお願いすることとし、すでに了承を得ていることが紹介された。

(以下敬称略) 佐藤富士雄、三宅登之、平井和之、岩本真理、山崎直樹、郭春貴、山田眞一

なお、今回は、どの論文についても、7名の編集委員の一人が編集責任を負うことになっている。

3．学会発表のエントリーの規定

前回の学会の際、参加時に会費を払うということで許可した海外会員がいたが、結局は参加をキャンセルするということが起きた。そこで、大会発表エントリー時に会員であることを条件とした。また、会費未納者がエントリーした場合は、未納分をまず払うよう督促する。今回の学会誌投稿者の中にも未納者が数名いたので、査読を始めるに当たって、督促を行った。その他種々意見が出たが、結果としては、「当年度までの会費を納入していること」を大会発表および学会誌投稿の際の条件とすることにすするが、地区例会については当面問わないことにした。会員各位の自覚と協力をお願いしたい。

また、学会発表エントリー時は個人なのに、予稿集のときには複数名になっていることがある。これは本来モラルの問題だが、今後具体的に対策を講じることにした。

4．寄付金への対応

2010年秋に、中国の対外漢語教育を進める“国家漢弁”から、中国大使館を通し、毎年50万円の寄付をしたいとの申し出があった。これは、かつて古川会長の時代に国際シンポジウムを開くために頂いたことから始まったものである。これをどうするかについて、理事間で先にメールで意見を交換したが、今回改めて議論した。結果は、中国のみから恒常的にお金をもらうことはしないほうがよい。会員、非会員を問わず、なんらかの催し物をする際、必要に応じ、趣旨に賛同する方に寄付をいただくという方向で落ち着いた。

5．名誉会員について

現行規定では、70歳以上で在会期間が5年以上ある会員がほぼ自動的に名誉会員になっていた。これに対し、春の理事会、総会で会長から「学会に対し一定の功労のあった人に限定してはどうか」という提案が出されていた。今回、会長から「学会成立後20年を経るまでは、申請に応じて議論し、それ以後は20年規定を加えてはどうか」という提案が出され、これについて議論した。なお、先に問題になっていた、「財政を圧迫する」という懸念は、現在のところそこまではいっていないということであった。ただし、「功労のあった」ということを決めるのは難しく、70歳を超えた（退職された）方への経済的優遇措置を考えてはどうか、「名誉会員」というからややこしくなるので、「シルバー会員」など名称を考えて、学生会員同様2000円にすればどうか、ある年齢になったら「終身会員」としてまとめていくらか払っていただくなどしてはどうか、など様々な意見が出、この問題については継続審議とした。

6．バックナンバーの管理・保存について

会長より、現状ではバックナンバーが段ボール箱5箱分あり、大会事務局が移動するたびに段ボールが何箱分も動く。したがって、今後は2,30部を残し、あとは廉価販売し、残ったものは古紙に出してはどうか、それは同時に会誌のデジタル化を目指すことになり、現在は要旨のみホームページに載せているが、全文載せるなら改めて許諾を得る必要があるとの提案があった。

これに対し、内山書店で売っていただいているので、どの時点から廉価販売をお願いするのか等、相談が必要である。そもそもデジタル化して載せることに反対する意見も多いのではないかと。すべてを画像データ化すればホームページがパンクしてしまわないか。印刷所を選ぶときに、どういう形で保存できるのか、こちらが必要な時にすぐに取り出せるようにしてくれるのか、という点も考慮しておくよ

い等の意見が出た。以上の意見を踏まえ、事務局としては今後具体的に作業をすすめるつもりである。

7. 名簿の発行と関連するデータについて

会長より、名簿の掲載情報について、会員への意向調査を往復はがき等とする予定であるが、返信がない時にどうするか、そもそも名簿が必要かどうかについて提案があり、種々議論した。結論としては、趣旨を理解していただき、氏名と所属先以外、住所・電話・メールなんでもよいので1つ連絡先を書いてもらう、返事がない場合、これまでの名簿の掲載情報が、氏名と所属先のみとしたいとの結論になった。なお、ハガキによる意向調査は追って実施する予定である。

8. 会長の再任、重任の禁止について

春の理事会で、前会長の古川理事より、会長を2期4年勤めて事務局も大変だった。再任、重任は避けて1期までとしてはという提案があり、これが今回承認された。

9. 事務局業務の外部委託について

会長より、中国語学会が来年度から大幅に実施するが、経費のことを考えると、本会は当面のところ見合わせざるをえないとの見解が述べられた。

10. ホームページの中国語版について

西理事より、海外の学会に参加した際、カナダ、アメリカなどの教員から日本の「中国語教育学会」は英語や中国語による情報がないので参加できない、閉鎖的だと言われた、つくってはどうかという提案があり、諮られた。これに対し、作成する際、会則、大会の応募規定、学会誌投稿規程（執筆要領）の中国語版がまず必要になる。その際には、中国人会員（とりわけ理事）の協力が必須である。ただし、この3点は毎回若干修正が必要になる。もし中国語版を作るなら、ホームページ運営委員会を作り、あわせて大会運営担当部署を作るべきである等々の意見が出たが、最終決定にはいたらなかった。

11. その他

理事の一人より、**中国語教育のセミナーの開催**をやってはどうかという提案があった。つまり、現在、専門は別で中国語教育に従事している人が多くいるが、そういう人には全国大会は敷居が高い、教育法など、勉強会的なものをやれば会員拡大にもつながるのではないかと、すでに他の学会では実施されているとのことであった。

(2) 2010年度 新規会員（2010年6月4日より11月30日現在まで）

呂雷寧（南山大学・非）、謝平（名古屋大学・院）、柳素子（蘇州日本人学校）、趙葵欣（関西学院大学）、堀江正樹（所属記載なし）、戴蓉（愛知大学）、山木眞理子（徳島大学・非）、李穎麗（名古屋大学・院）、中田雅信（近畿大学）、磯辺美里（愛知大学・非）

(3) 今後の研究会開催のお知らせ

関西地区拡大研究会 中国語教育学会関西地区研究会特別企画
ワークショップ『コミュニケーションのための「文法」を考える』

日時：2011年3月5日（土）13:00～17:00 場所：関西大学岩崎記念館4F多目的ホール2

第1部 山崎直樹（関西大学）コミュニケーションのための「文法」を考える

中西千香（愛知県立大学）コミュニケーション文法教育の課題 前置詞構文を例に

西 香織（北九州市立大学）

コミュニケーション文法と語用論 親疎関係から見る中国語コミュニケーション

植村麻紀子（神田外語大学）

言語形式と機能とのリンクを探る 中国語初級教科書の文機能分析を通じて

鈴木慶夏（釧路公立大学）

コミュニケーションゴールからの逆向き文法学習 映画を見に行く約束をするのに必要な文法知識とは？

第2部 発表者によるディスカッション

（4）2011年度第9回全国大会のお知らせと研究発表応募要領

第9回全国大会は 2011年5月28日（土）、29日（日）に麗澤大学にて開催します。

すでにホームページ上に掲載されていますが、以下の要領により研究発表を募集しますので、奮ってご応募ください。

1. 応募資格：

応募者は、応募時点で2010年度までの会費を納入済みの本会会員に限る。

2. 発表内容：

発表内容は未発表のもので、広く中国語教育に関わるものであること。

3. 応募要領：

- ・所定の様式（「発表者原簿」及び「発表要旨」）を

<http://www.jacle.org/storage/11entrysheet.doc> からダウンロードし、記入して提出。

- ・「発表要旨」（2ページ目）は、1行目にタイトル、2行目に氏名、所属を書き、3行目「発表要旨：」の次の行から横書き1000字以内で日本語または中国語による要旨を書く。

4. 書類提出先

(1) メールの場合：

件名を「第9回全国大会発表応募」として、以下の準備会メールアドレス宛に添付ファイルで送信してください。

jacle.reitaku2011@gmail.com

アドレスの間違いないように、くれぐれもご注意ください。

学会ホームページ（<http://www.jacle.org/>）からもリンクされています。

(2) 郵送の場合：以下の宛先に郵送してください。

〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

麗澤大学外国語学部 中国語・中国文化専攻共同研究室

「中国語教育学会第9回全国大会」準備会宛

5. 締切：

2011年2月25日（金）必着。

採否の結果は2011年3月中に応募者全員に通知し、ホームページにも掲載します。

(5) 事務局からのお知らせ

・年会費の徴収について

現時点までにすでに多数の会員から会費を納入頂きました。ご協力ありがとうございます。ただ、下表の通り、名誉会員10名を除いた一般会員478名の会費納入率が、2010年12月時点で人数ベースでは69%、金額ベースでは65%にとどまっております。とくに滞納分がある会員については納入率が極端に悪くなっています。このような状況が今後も続きますと、本学会の活動に支障を来すことが予想されます。まだ納入がお済みでない場合でも、随時受付けておりますので、振替用紙に必要事項をご記入の上、2010年度の年会費5,000円をお振り込みください。また、滞納分がある方は、できるだけ一括納入ください。できない場合は通信欄にその理由をご記入ください。請求金額が合計15,000円を超える場合は会則にしたがって除籍となります。なお、今回は複数年度の滞納がある会員に「納入のお願い」を同封してあります。今年度会費未納の方も100名余りいます。お忘れの方は、先にお送りした振替用紙、ないしは郵便局の用紙を使いお振り込みください。手数料は各自でご負担下さい。

振込先 中国語教育学会

口座番号 00110-1-191152

	2010年度 請求額(円)	該当数	納入予定額	納入 数	納入額	納入率 (人数)	納入率 (金額)	未納数	未納額
金額別	15,000	9	135,000	2	30,000	22%	22%	7	105,000
	10,000	50	500,000	18	175,000	36%	36%	32	325,000
	9,000	1	9,000	0	0	0%	0%	1	9,000
	5,000	416	2,080,000	311	1,555,000	75%	75%	105	525,000
	4,000	1	4,000	1	4,000	100%	100%	0	0
	0	1	0	1	5,000	-	-	-	-
合計		478	2,728,000	333	1,769,000	69%	65%	145	35%

(注)

上記のうち、9,000円は過去に6,000円を振込んだ年度と未払いの年度があり、4,000円は6,000円を振込んだ年度があるため。

また、過払いが5件(計25,000円)あり、これについては2011年度会費として処理する。上記の納入数・納入額には、過去の過払い分を今年度会費として相殺したものを含むため、実際の振込実績とは若干の差異がある。

2,728,000円には、2009年度迄の未収金(2009年度末の除名対象者の会費未納を含む)468,000円を含む。

・住所・勤務先などの変更届について

郵便物が住所不明で事務局に戻ってくることがあります。住所や勤務先などの変更が生じた場合には、学会事務局まで電子メールにてご連絡ください。なお、事務処理上の煩雑さを避けるため、振込用紙への記入や郵便、ファクスなどでのご連絡はご遠慮ください。

・情報提供のお願い

中国語の教育・研究にかかわる研究会・講演会やスピーチコンテストなどの催しがある時は、ぜひとも事務局にご一報ください。学会ホームページ(<http://www.jacle.org/>)において広く通知します。